

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」
平成24年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

平成 25年 5月 15日
プログラム総括 森田 朗

1. 研究代表者：

今中 雄一（京都大学 大学院医学研究科 教授）

2. プロジェクト企画調査の題名：

医療介護システム等協創の科学技術イノベーション政策のための企画調査

3. プロジェクト企画調査期間：

平成24年10月～平成25年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

医療介護システム等の構築のための社会的科学技術とその科学技術を推進する政策に関する構想について、より明確に、科学技術イノベーション政策のための科学として貢献できるように、成果を上げていく道筋を明らかにすることを目標とした。

そのために、(1)「科学技術イノベーション」について、(2)「科学技術イノベーション政策」について、(3)「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発」について、国内外および関連する広領域より情報収集し、分析・考察、概念整理、重要課題領域の同定、科学研究開発の重要領域の同定、研究開発方法の設計などを行う、という計画が立てられた。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

科学技術イノベーション政策に関わる課題や ICT 等の科学技術によるイノベーションに関する調査など、計画に対して妥当な調査が行われ、情報収集と整理に関わる計画は概ね実施された。一方で、それらの個々の調査から、研究開発の必要性や構想の見直しといった総合的な見地を導き出す過程における説得性が必ずしも十分でなく、最終的な目標とした「科学技術イノベーション政策への貢献の具体化」が十分になされたとは言い難い。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

高齢社会における医療介護等の社会システムの問題とその解決策を客観的根拠に基づき提示しているとする構想の問題意識は重要であり、構想案において提案されている、ステークホルダー間で客観的根拠や課題を共有するためのデータベースの構築や解析・可視化といった要素は、プログラム目的に寄与することが期待される。また、今回の企画調査で構築されたアクターや専門家とのつながりが新たな構想に組み込まれ、成果の創出に活かされることも期待される。一方で、報告書の範囲では「政策のための科学」のプロジェクトとしての必要性の明確化と研究対象の絞り込みが十分でないと懸念されることから、構想にあたっては、広範な調査で得られた知見を基に、「医療介護分野」における「科学技術イノベーション政策のための科学」への貢献がどのようなものか、すなわち、どのような政策にどのように貢献するのか（※）を明確にすること、およびそのための具体的な計画の立案が必要とされる。

※ 例えば、『国全体の科学技術開発予算のあり方や方向性の観点を踏まえた上で限られた財源の配分をどのように行うのか』、『新薬や新技術開発政策はどうあるべきか』といった課題への貢献の可能性。あるいはプロジェクトが提案・改善しようとする具体的な政策はどのようなものか、といった視点。

以上